

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル～ユニット1(かえで)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 27年 1月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人である。医療面においては協力医院もあり、協力体制が整っています。又楽しみである食事の材料は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状況把握に努め支援しています。職員は御利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごしていただけるよう笑顔ある暮らしを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、ひとりひとりのこれまでの生活歴や暮らし方、サービス利用の経過と合わせて、職員が日々寄り添い、傾聴する中で分かってきた事などを、フェイスシートとしてまとめています。このフェイスシートを完成するには、利用者と真剣に向き合い、信頼されることがとても重要だそうです。職員の話からもしっかりと向き合い、その人を知らないとな作成出来ないということでした。その人らしい暮らしの支援が出来るように、このフェイスシートを有効に活用し、ここで良かったと思われるケアを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を職員が常に意識できるよう掲示し、入居者様の思い、意思を尊重し、その方らしい生活が送れるよう共有、実践に繋げている。	基本理念は4項目から成り、笑顔ある暮らし、利用者の思いの尊重、統一したケア、家族や地域との結びつきの大切さを骨子として謳われており、職員が常に意識することが出来るよう、2ヶ所にわたって掲示している。また、職員の聞き取りからも、理念が浸透していることがうかがえた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方とお会いした際には、挨拶を行い会話をして交流を図っている。散歩や外出を行い地域交流を行っている。	以前は、ふれあいサロンを利用する方がおられ、そこを通じて地域との関係が生まれ、民生委員の方々に認知症の学習会を行ったこともあるとのことである。現在は、ふれあいサロンの利用者はおられないとのことであった。	地域との結びつきの大切さは、基本理念にも謳われています。運営推進会議などで、地域の情報を収集し、可能なところから行動してみるも、一つの方法だと思えます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアで慰問の受け入れを行っている。その際、ボランティアの方・見学に来られた方に認知症の理解をして頂けるように説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員、地域包括支援センター、社協、区長2名、民生委員2名、各ユニットよりご家族様1名ずつ参加して頂き状況報告・現在の取り組み等を報告している。ご家族様からの質問・要望もあり、今後のサービス向上に繋がられるよう協議している。	運営推進会議は、さくら棟、かえで棟合同で奇数月に行われており、会議終了時に次回の日時を決めている。現在は、家族の出席が各棟2名ずつと増やしており、その他の出席者も含めて質問や要望など、活発な話し合いが行われている。これからのサービスの質の向上につなげて欲しいと思えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に、疑問点等を意見し、助言を頂いている。相談・報告事案が出た際には、その都度、連絡を行い連携を密に取っている。	運営推進会議には、町の担当者も出席しており、その際に疑問点などがあれば質問し、助言を受けている。後日、相談や報告事案が発生した場合には、その都度連絡を取り、指導を仰いでいる。また管理者は、町の事業計画作成委員にも就任しており、町との関係は良好である。	

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修会に出席した際、全体ミーティング後に職員と勉強会を行っている。身体拘束になる禁止行為を正しく理解しケアに取り組んでいる。また、入居者様のストレスが溜らないよう訴えを傾聴し時には、近隣を散歩するなど気分転換を図っている。	事業所では、ブロックの研修会や県の高齢者虐待防止委員会への出席後に勉強会を行い、職員への周知を行っている。また、身体拘束に該当する禁止行為の具体例やその弊害などについても学んでおり、実践として近隣への散歩を取り入れるなど、利用者のストレス発散に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者の権利擁護、虐待防止等の研修を受けており、定期的に職員へ助言・勉強会を行っている。また、職員がストレスを溜め込まないように気軽に相談できる環境、人間関係の構築に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見制度を利用して入居者様がおられた。勉強会を実施し制度の内容を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、入居者様・ご家族様と一緒にホーム内を見学して頂いている。ホーム内の雰囲気、構造を確認して頂き、十分な説明を行っている。丁寧な説明を行い納得されたうえで契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に職員が日常の状況を説明している。その中で、ご意見・ご要望を聞き取り、ご家族様との信頼関係を構築できるよう努めている。また、意見箱の設置を行っている。	家族の面会時には、日頃の生活状況の報告を行うと同時に、意見や要望の聞き取りも行っている。管理者も声かけを行い、玄関まで見送ることで、信頼関係づくりに取り組んでいる。また、意見箱の設置や苦情相談窓口のポスターも掲示している。	家族からはなかなか本音は言いにくいと思います。これからも、謙虚に耳を傾ける姿勢と、なんでも気兼ねなく発言できる雰囲気づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との会話がよく取れるよう努めている。スタッフ間で何でも話が出るような環境作りを心掛けている。また、全体ミーティングの場で各々の職員が意見・要望を述べ、職員全体で話が出る場を設けている。	日頃から、職員との関係づくりに気を配っており、全体ミーティングでは、意見や要望を聞く機会を設けている。また、職員の聞き取りからも、意見や要望が言い易い環境であることが分かり、職員の表情も明るく、サービスに取り組む姿勢も、積極的な感じを受けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の表情や業務中の動作を観察している。個人面談で勤務に対する要望・悩み等の相談を行いながらスタッフが勤務しやすい環境作りに努めている。残業手当・資格手当等を支給し労働条件を整備している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修参加の申し込みのあった職員には、スキルアップできるよう参加を許可している。また、グループホーム連絡会で行われる勉強会にも職員参加を呼びかけ、個々のレベルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修会に定期的に参加しており、その中で同業者と情報交換を行い交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、その方の思い・不安・悩みを聞き取っている。時には、本人様と面談する機会を多く設け、不安を軽減すると共に、信頼関係を築いて行けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時に不安事、要望を聞きだしている。サービス内容の説明時に納得され不安が軽減できるよう丁寧な説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の意思を確認し必要であるサービスを提供できるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり尊敬の念を持って共同生活をさせて頂いている事を常に意識している。同じ目線に立つことで、教えて頂くことが多くある。その方にあった、生活状況を把握し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、近況の状況報告を行っている。その際に、ご家族様からの要望等があった際には、より良い状況になるよう話し合いを行っている。行事の際には、ご家族様にも参加を呼びかけ入居者様と一緒に過ごして頂ける時間が作れるよう取り組んでいる。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方、ご家族様の面会があった際には、ゆっくりと話ができるような環境を整えている。外出・外泊も自由にして頂き、喜び・安心できるよう関係継続に努めている。	事業所は、理念の中に家族や地域との結びつきの大切さを謳っています。知人や家族の面会の場合には、お茶やジュースを出し、部屋でゆっくりと話をしてもらっているとのことである。現在、家族の協力で、外出や外泊をされる利用者が2名おられる。今後も積極的に関係継続の取り組みを行っていくようである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の入居者様の特技や趣味等を把握し、入居者様同士が穏やかに過ごして頂ける座席の配置や場所等を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された際には、見舞いに行っている。また、契約が終了していてもご家族様からの相談に応じたり、近況をお伺いする等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションを多く図っている。生活の中で本人様の思い・意向を会話の中から把握している。	事業所では、気持ちシートを活用しながら、利用者とのコミュニケーションを出来るだけ多く取るように心掛けている。またスタッフからは、表情や体の状態、手の動きなど、観察力を研ぎ澄ますことが重要だと聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取り、日頃からの会話・接する中から情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にする事で、現状の把握に努めている。情報をスタッフ間で共有し、その方に合った生活を支援している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当でモニタリングを行っている。ご家族様に報告し、質問・意見を頂いている。その際、ご家族様・スタッフ間で協議している。カンファレンスを行い介護計画を見直している。	介護計画は、ケアマネージャーが本人、家族、担当者と話し合って作成している。家族の参加については、面談の際に意見や要望の聞き取りを行うことが多いようである。また担当制については、記録上ということで、日頃のケアについては全員で行っている。利用者に、体調の変化や生活状況の変化が見られるようになった場合は、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画になるよう見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化を見逃さず記録に残すようにしている。申し送りの際に、確実に情報を共有している。記録を確実に行き、重要性を周知徹底しケアの統一につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に、生じる状況の変化に応じて柔軟に対応している。ユニット間での協力を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで慰問に来て頂いた際に、近隣住民の方々にも参加していただいている。住民の方々と話したり共に過ごす事により穏やかな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望を重要視し、かかりつけ医への受診支援を行っている。日々の状態観察を注意深く行い、体調不良時等に担当医への報告、指示を受けられるよう関係を密に取っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。適切な医療が受けられるよう、体調不良時や、日頃の状況についても、正確な情報提供を行うようにしている。また毎月、訪問歯科を受診されている方が数名、認知症の専門医を受診されている方が4名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づきの際には、早急に看護師に伝え介護・看護の注意点等の指示を受け対応している。また、急変時オンコール対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・看護師とご本人様・ご家族様の希望など情報交換を行い連携を取り、早期治療ができるよう支援している。また、入院後は、治療状況など状況把握に努め、早めの受け入れが出来るよう退院に向けた支援を行っている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、段階に応じてご家族様と話し合いを行う。医療依存度が高くなされた場合、ホームで出来ることを説明し出来る限り意向に沿った支援に取り組む。	医療依存度が高くなるような場合は、事業所としてできることを説明し、その後の方針を決めるようにしている。また、事業所としては、できる限り本人・家族の意向に沿う方針のようであるが、その条件として、かかりつけ医の協力と、家族の理解・協力が必須とのことである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応、手当ての手順・訓練を勉強会で行っている。マニュアルを作成しているが、日頃から入居者様の状態を把握し、危険性を想定して業務に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、年2回は消防訓練を実施している。夜間訓練を想定し消防署職員立会いの下、訓練を実施している。近隣住民にも参加を呼びかけ、連携を密に取っている。	火災時の避難訓練は、年に2回行っており、その内1回は夜間を想定し、消防署の立ち会いのもと実施している。職員の参加については、勤務状況により、2回のうち1回は必ず参加できるように調整を行っている。非常時の備えについては、缶詰、飲料水、カップ麺などを3日分程備蓄している。	利用者が安全に避難するためには、近隣の協力が欠かせないと思います。運営推進会議等を通じて、訓練参加への呼びかけや、協力体制づくりを相談してみるのも大事だと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、尊敬の念を持って共に過ごさせて頂いている。言葉使い、振る舞いに注意している。朝礼の際にも接遇について注意するよう、申し送っている。その方の意思を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう心掛けています。また、個人情報の取り扱いについては、契約時に説明を行い同意を得ている。	利用者の気持ちや思いを大切に、決しておしつけにならないようなサービスを心がけている。また残存機能を生かしながら、その人しかできない役割を見つけ、支援することも人格の尊重だという話があった。また、個人情報の取り扱いについては利用目的を定めており、契約時に同意書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせた声掛けを行っている。どちらの洋服を着たいか等、自己決定を促している。自己決定ができる状態の時は、声掛けを行い決定して頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様中心である事を常に意識している。その方の意思を尊重し、その方らしい生活が出来るよう支援している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を更衣する際、選択できる入居者様には選択して頂いている。化粧をされる入居者様もおられ、その方に合った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を調理し、その季節感も味わって頂けるような献立を作成している。また、食材の皮むき・下ごしらえ・味見等をお願いし家庭的な雰囲気を感じて頂けるよう支援している。	法人の農園から、新鮮な旬の野菜が届けられており、季節感を味わえるような食事の提供を行っている。調理については、職員が交代で担当しており、利用者も皮むきなどの下ごしらえに参加している。食事風景は、ほとんどの方が介助の必要がなく、完食されていた。献立書きも利用者が担当しておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の嚥下状態に合った食事形態で提供している。水分補給が難しい方は、ゼリーを作り対応している。食事量・水分量のチェック表を作成し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じ、歯ブラシ・舌ブラシを使用しながら口腔ケアを行っている。義歯は毎日、消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成している。各々の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている。便座に座り排泄動作を行う事で、自然排便を促している。	排泄チェック表を作成している。時間による声かけや動きがある、ズボンに触るなどの一人一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレでの排泄を支援している。「おトイレは空いてますよ」「そろそろ食事ですから、トイレを済ましておきましょうか」など、トイレでの自然排泄に積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操に参加して頂き身体を動かす、水分摂取を勧める等、便秘予防を行っている。状況に応じ内服薬での排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の意向に沿って最後に入浴する等、個々にそった入浴支援を行っている。自身で洗身して頂くよう促し、洗い残しは職員の介助の下、行っている。	利用者本人の意向に添った支援を行っている。回数的には、週に2~3回を目処に支援している。個人浴となっており、対応は基本的に同性が行うようにしている。日本の文化であるゆず湯や菖蒲湯の支援、その他入浴剤による支援も行っている。入浴拒否がある利用者に対しても、無理強いせず、場面づくりなどで対応している。	

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態を観察し必要に応じ休息を取っていただいている。気持ちよく休めるよう寝具調整、室温調整を行い入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を閲覧できるようにしている。服薬の際は、声を出し職員同士で3度の確認を行い誤薬が無いよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に行事を行っている。祭りの際は、ご家族様も出席され楽しんで頂けるような催しを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に同行して頂いたりしている。ご家族様と外食をされたり、床屋に出かけられたりされご家族様の協力も得られている。	管理者は、出来れば1日に1回は外の空気を吸ってもらいたい、と考えている。職員と買い物他、外食や床屋利用などは家族の協力を得て行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様で管理できる方は、ご家族様了承の下、管理されている。その他の入居者様は、職員が預かり金として管理し物品等購入の際に、ご家族様に連絡し購入している。また、買い物の際に職員と同行して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から要望があった際、電話をしている。また、ご家族様から電話があり、取り次ぐ支援を行っている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下は、スペースを広く取っており余分な品物を置かない対策をとっている。季節毎の飾りつけ、花を生けたりして季節を感じて頂いている。	共用スペースはゆったりと設計されており、天井には明り取りのトップライトが取り付けられている。そのため、室内はとても明るく、穏やかな雰囲気となっている。壁面や廊下の天井には、利用者の写真や作品を飾り付け、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置し、その方が落ち着いて過ごせる場所を用意している。中央スペースにも椅子を設置し外の風景を見ながら過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながらベッドの配置を変えたり、今まで使用されていた物品を設置したりしている。本人様の身体状況に応じた安全で快適な居室作りに取り組んでいる。	居室の基本的な設備は、ベッドと空調、それに部屋づくりのために写真や絵を簡単に留めることのできるコルクボードとなっている。寝具やチェスト、調度品などは、使い慣れたもの・好みのものを持参して頂くように話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置している。危険となる物品を排除している。また、入居者様の身体状況に応じた居室作りをし安全に生活して頂けるよう支援している。		